

お茶の水女子大学所蔵の台湾五万分の一旧地形図について

郭 俊麟（台湾中央研究院人文社会科学センター）

1. はじめに

お茶の水女子大学所蔵外邦図目録が刊行され、その中に台湾五万分の一地形図合計 108 枚が判明した。このコレクションは、要塞近傍図を全て収録しており、中央山脈の一部を除くほぼ台湾全島をカバーする貴重な地形図セットである。本稿では、まず、日本統治時代の台湾地形図の測量史における各時期の五万分の一地形図の性格を説明する。次に、お茶の水女子大所蔵の昭和期発行の台湾五万分の一地形図の意義とその位置付けをしたうえで、学生社復刻出版の『台湾五万分の一地図集成』の利用に関する注意点について述べる。最後に、お茶の水女子大目録に未収録の地形図に関して、台湾中央研究院の調査結果とその地形図の入手経緯を紹介する。

2. 殖民地時代の台湾の五万分の一地形図

殖民地時代における台湾地形図の性格は、日本の国勢の拡張や戦争の事態変化とともに、「殖民地征服」、「土地調査」、「内地延長」、「太平洋戦争」の四つの時期に分けられる。

「殖民地征服」時期に作製された台湾五万分の一地形図（迅速図）は、近代台湾における最初の五万分の一地形図であり、19 世紀後半清末の地表景観を記録した史料である。明治から大正にかけての「土地調査」時期には、台湾の中央山脈の山岳地帯と東海岸を対象にした「五万分の一蕃地地形図」が、台湾総督府警察本署・番務本署により作製された。この地形図セットは、当時の原住民集落を初めて地図化した。一部調査困難の山岳地帯には空白にしたものもあった。台湾が内地とされた「内地延長」時期には、日本全国の基本地形図の一環として台湾全島における「五万分の一地形図」が出版された。これは、殖民地時代において最も普及した地形図といわれる。1941（昭和 16）年以降の台湾は、太平洋戦争に巻き込まれ、軍事目的で、「台湾五万分の一編纂地形図」が終戦直前の 1944（昭和 19）年に製版されていた。一方、アメリカ陸軍製図局も同時に五色印

刷の台湾地形図を作製した。お茶の水女子大学所蔵の台湾五万分の一地形図は「内地延長」時期に発行された地形図であり、昭和期の日本国内で発行する内邦図と同じ性格を持っている。

3. お茶の水女子大所蔵の台湾五万分の一地形図の意義と位置付け

昭和年間に続々発行された台湾二万五千分の一地形図と台湾五万分の一地形図は、参謀本部・陸地測量部により、日本本土と同じ調査・測量手法で作製された近代的な地形図である。これらは、殖民後半期における台湾の近代化に関する地表景観を反映した貴重な史料であり、台湾地形図発展史においても欠かせないものである。台湾二万五千分の一地形図は、台湾の三分の一の面積を占める西海岸を中心に整備されたが、中央山脈の山岳地帯と東台湾は収録されていない。一方、五万分の一地形図は、ほぼ台湾全島について地上写真測量を併用した画期的な地形図セットと考えられる。

昭和以降に発行された台湾五万分の一地形図は、大正期の蕃地地形図と同じ縮尺で作製されたものだが、より精密な測量で殖民後半期の地表景観を記録した。特に、日本の政治力が浸透した台湾東部と中央山脈では、少数民族の集落や開墾のため日本からの移住者による移民村も読み取れる。

1982 年学生社の復刻出版による『台湾五万分の一地図集成』は、研究者の大きな関心を集めている。これは、1902（明治 35）年から 1939（昭和 14）年にわたって発行された、主に蕃地地形図と昭和期五万分の一地形図を組み合わせた地図集である。旧地形図収集の意義は大きい。上記のとおり本来異なる地形図セットを用いたものであり、その違いを踏まえた慎重な利用が求められる。

4. お茶の水女子大未収録の地形図に関して

お茶の水女子大所蔵の 108 枚の台湾五万分の一地形図は、ほぼ台湾全島を被っているが、澎湖列島と

一部山岳地帯の図幅は未収録である。筆者は 2002 年台湾中央研究院の委託で日本の防衛研究所史料閲覧室の台湾旧地形図を調査したが、防衛研究所の台湾五万分の一地形図の目録は、お茶の水女子大の所蔵とほぼ一致し、同じ未収録の図幅があった。これら未収録地形図は、台湾国内の大学や研究機関においても見つからず、「内地延長時期」に正式製版されていなかったか、あるいは 1937（昭和 12）年日中戦争開戦による測量作業の遅れによると推測できる。

一方、台湾中央研究院の調査によると、1944（昭和 19）年発行の「台湾五万分の一編纂地形図」は、上記の未収録図幅を含む台湾全域について、アメリカ国会図書館地図部に保管されている。この地形図セットは、太平洋戦争の準備のために編纂されたものであるが、継続していた台湾の五万分の一地形図の測量事業の一部と考えられる。たとえば、「出雲山」は、お茶の水女子大目録にない中央山岳地帯の図幅であり、昭和 19 年（1944）製版の五万分の一地形図である。この地形図は、未完成のように見えるが、地上写真測量を用いて蕃地地形図を修正したもので

ある。また、地図の下端に「Library of Congress Jul 28 1949」の印が認められる。日本敗戦後に連合軍またはアメリカ軍の接收を経て、アメリカ国会図書館に所蔵されるに至ったと考えられる。

5. 終わりに

本稿は、殖民地時代の台湾五万分の一地形図セットに関する比較をふまえて、お茶の水女子大目録にある昭和期台湾五万分の一地形図を中心に検討した。終戦直前に発行した台湾五万分の一編纂地形図と同年アメリカが作製した五万分の一地形図に関する議論は、今後の課題として残っている。お茶の水女子大外邦図目録完成によって、デジタルアーカイブの公開、『台湾五万分の一地図集成』の修正や本格的な出版が期待される。

謝辞 本稿の作成にあたり、台湾中央研究院計算機センターの廖法銘先生、歴史語言研究所研究員（人文社会科学センター・GIS センター長）の范毅軍先生からご助言をいただきました。心より感謝します。